



# 「先読みバランスチャート FX」における 「ダウ理論」の定義と活用法

# 動画 Part1:【先読みバランスチャートFX】における「ダウ理論～6つの基本法則」の考え方

## ●平均はすべての事象を織り込む

→ チャートには、今後の値動きに関する様々な情報のほとんどが現れている (＝先読みバランスチャートの設計思想そのもの)

## ●トレンドには3種類ある

→ 時間軸(周期設定)の異なる各チャートごとに、

「ボダー【比率:3】/アラート【比率:1】」は、中期と短期に特化したトレンド判定が可能

→ 先読み A～C の各セットについては

長期(C)セット【比率:9】 > 中期(B)セット【比率:3】 > 短期(A)セット【比率:1】 という比率になっており、

それぞれの方向性や上下関係のそろい方でトレンド把握が可能

## ●主要トレンドは3段階からなる

→ 先行期 : トレンド転換期にあたるため、トレンドの転換を見極める時期

追随期 : トレンド転換が認められた段階で、ブレイクアウト(またはダウン)ポイントを見定めてエントリー

利食い期 : 先読みインジケータなどの活用で「頭と尻尾」のうちの「尻尾」はしっかりと手に入れる

●平均は相互に確認されなければならない

- ドル高／ドル安、ユーロ高／ユーロ安、円高／円安 などの見極め  
単一通貨ペアだけでのトレンド判断ではなく、複数通貨ペアを観察した上での同調性による判断が望ましい

●トレンドは出来高でも確認されなければならない

- FXは相対取引であるため、株式のような出来高という概念をあてはめにくい  
ただし、主要都市の時差による市場参加者の多寡が出来高に影響を与える部分は大きいので、  
取引時間帯に関する意識だけはしっかりと持つ

●トレンドは明確な転換シグナルが発生するまでは継続する

- 「ボーダー【比率:3】／アラート【比率:1】」のインジケータを活用  
「トレンド」(=大きな流れ)の定義をして、軸をぶらさない  
MT4 で見た場合、4 時間足チャートのボーダーラインの方向性がトレンドの方向

注: 「ダウ理論」の6つの基本法則 出典 『ウィキペディア』

## 動画 Part2:【先読みバランスチャートFX】における「ダウ理論」の定義

- 日足チャートで、すでに確定している2本のローソク足の高値や安値の関係性で定義する
  - 上げダウ : ある1本のローソク足の高値や安値よりも、その直後に続くローソク足の高値や安値がともに高くなっている
  - 下げダウ : ある1本のローソク足の高値や安値よりも、その直後に続くローソク足の高値や安値がともに安くなっている
- 実際には、すでに確定している3本以上の連続したローソク足の関係性で判断する
  
- なぜ日足チャートのローソク足でなければいけないのか(=なぜ、日足チャートより短い時間軸で考えてはいけないのか?)
  - 主要都市の地球上の位置関係により、NYマーケットのクローズタイムを基準にした24時間ごとに、市場参加者のコンセンサスが一巡すると考える
  
- 注: 用語的には、日足チャートよりも短い(=下位の)時間軸チャートにおいても、単純に上げや下げの方向性が感じ取れる値動きを観測できた時に、短期的な視点での「『上げダウ』や『下げダウ』が発生している」などと使うこともある。

## 動画 Part3:【先読みバランスチャート FX】における「ダウ理論」の実際の見方

→ すでに確定している3本以上の連続したローソク足について、それぞれの高値・安値の関係性を把握する

注： ローソク足単位での現状のマーケットの方向性を定義する場合には、  
原則として、日足チャート以上の長期の周期設定チャートで行う

→ 日足チャートでの定義が、最も短い期間での定義となる

→ 実際の定義では、「ボーダー／アラート」のインジケータの活用する

- ・4時間足チャートのボーダーライン：

過去2.5～3週間程度の相場の動きを元にしたダウの方向性

- ・1時間足チャートのボーダーライン：

過去3日間程度の相場の動きを元にしたダウの方向性

- ・15分足チャートのボーダーライン：

前日(=過去20時間弱)の相場の動きを元にしたダウの方向性

→ デイトレードレベルであれば、4時間足チャート以下の周期設定のチャートだけでも、  
週足ローソク足単位の大きな流れを把握しながら、日足ローソク足単位の相場の動きを確認し、  
対前日比のブレイクポイントを絞り込むことが可能

- 高値と安値の関係性を最優先するが、他に、終値ベースでの相場の上下動も把握するようにする
- 各周期設定チャートのボダーライン同士の関係性で大きな流れを確認しつつ、各周期設定チャートごとに、ボダーラインとアラートラインとの関係性を加味して観察することで、トレンドフォローのためのブレイクポイントを絞り込んでいく
- 当初は、4時間足チャートのボダーラインの方向性を「大きな流れ」と定義した上で、その方向性にあったトレードポイントを選定したり、今後の相場の動きを想定してみたりするところから始める

## 動画 Part4:【特別付録】ダウ理論基本学習法

別冊のPDFファイルと、Part4の動画をご参照ください。